

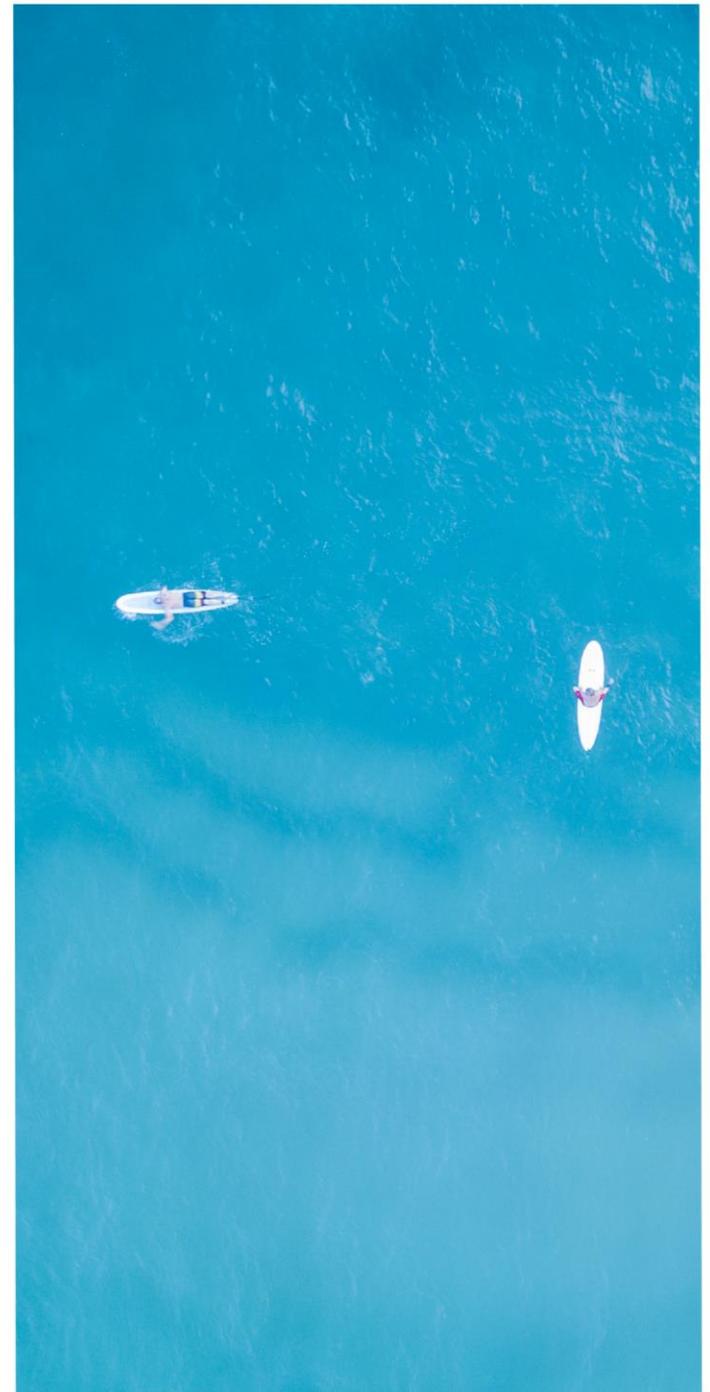
2021年3月期 決算説明 及び、 2022年3月期 経営計画資料

Make Innovations Stage-II

積水化成品工業株式会社

(東証第1部 証券コード：4228)

2021年5月11日



2021年3月期 決算概要

(単位：億円)	2019年度 実績 (A)	2020年度 7月公表計画 (B)	2020年度 実績 (C)	前期対比		計画対比	
				(C)-(A)	増減率	(C)-(B)	増減率
売上高	1,361.6	1,160.0	1,188.5	△ 173.0	87% (△13%)	29	102%
(国外売上高)	493.7	-	402.6	△ 91.0	82%	-	-
(対売上高比率)	36.3%	-	33.9%	-	-	-	-
営業利益	37.3	20.0	20.9	△ 16.3	56% (△44%)	0.9	105%
<営業利益率>	<2.7%>	<1.7%>	<1.8%>				
経常利益	33.9	16.0	19.6	△ 14.3	58% (△42%)	3.6	122%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	23.2	10.0	11.3	△ 12.0	48% (△52%)	1.3	113%

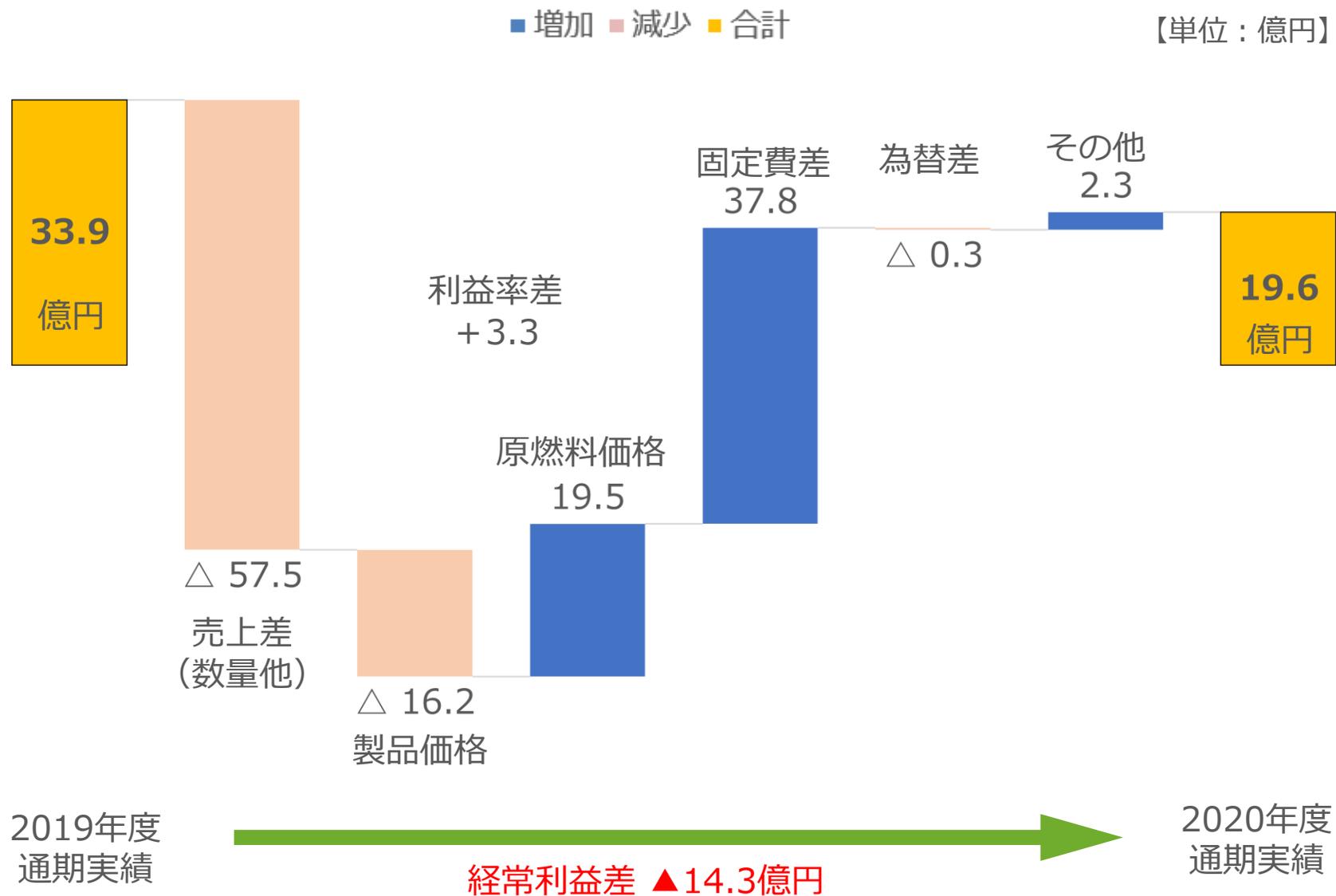
●前年比「減収・減益」

- ・新型コロナ影響により、生活分野では巣ごもり需要の恩恵を受けた一方で、工業分野での自動車関連事業を中心とした上期のマイナスインパクトが大きく響き、通期では「減収・減益」

●年度計画達成

- ・2020年度計画（2020年7月公表）を達成

2021年3月期 経常利益増減要因



2021年3月期 工業分野業績

(単位：億円)	2019年度 実績 (A)	2020年度 実績 (B)	前期対比	
			(B)-(A)	増減率
売上高	780.5	653.8	△ 126.7	84% (△16%)
営業利益 <営業利益率>	13.9 <1.8%>	△ 6.9 —	△ 20.9 —	—
経常利益	11.9	△ 9.6	△ 21.4	—

● 新型コロナ影響により上期に大幅マイナス。下期回復傾向も、前年対比「減収・減益」 ※20年下期は黒字転換

自動車分野

- ・ 新型コロナ影響により著しい需要減少を受け、「ピオセラン」の販売落ち込みやProseatグループの業績が悪化
- ・ 自動車メーカーの生産再開に伴い、後半から回復傾向

家電・IT分野

- ・ 「ピオセラン」の液晶パネル関連資材は販売が落ち込む。
- ・ 「テクポリマー」は液晶パネル等の光拡散用途でPC・モニターの需要増を背景に売上が堅調に推移

医療・健康分野

- ・ 「エラストイル」シューズ部材用途は後半に需要回復、バイオグレードの新規モデル投入も加え通期で大きく伸長
- ・ 「テクノゲル」は米中貿易摩擦の影響や新型コロナ影響により低調な推移

利益面

- ・ 原価や固定費の削減に取り組むが、販売低迷による限界利益の減少を補えず
- ・ Proseatグループの英国拠点の撤退を想定した特別損失を計上

2021年3月期 生活分野業績

(単位：億円)	2019年度 実績 (A)	2020年度 実績 (B)	前期対比	
			(B)-(A)	増減率
売上高	581.0	534.7	△ 46.3	92% (△8%)
営業利益 〈営業利益率〉	33.5 〈5.8%〉	38.6 〈7.2%〉	5.1	115%
経常利益	32.8	37.5	4.7	114%

● 食品容器向け「エスレンシート」が好調も、農水産・建材土木関連などの低迷により「減収」利益面では、徹底した原価低減や固定費の削減もあり「増益」

- ・食品容器分野
外出自粛やインバウンド需要の大幅減から、行楽・観光関連向け需要減が継続
スーパーの食品トレー向けや飲食店の持ち帰り容器向け需要が好調
- ・農水産分野
水産関連における漁獲高減少に加え、観光や飲食店向けの需要減少から低調
- ・建材土木分野
道路冠水対策や雨水処理用途で採用されている「アクアロード」部材の、軽量盛土浮力対策用途としての物件獲得が進む
- ・「エスレンシート」の売上数量は、巣ごもり需要を受け、生鮮食品トレーなど食品容器関連の需要増
- ・「エスレンビーズ」の売上数量は、ライフグッズ用途で好調も、主要用途の水産関連需要が低調
- ・利益面は、「エスレンシート」の好調な販売に加え、原価低減や固定費削減などのコスト削減により「増益」

2021年3月期 財政状況

(単位：億円)	2019年度 実績	2020年度 実績	前期 対比
総資産	1,491	1,584	+ 93
純資産	672	707	+ 35
自己資本比率	44.1%	44.2%	0.1%
1株あたり純資産	1,450円32銭	1,549円84銭	99円52銭
(参考) 自己資本	657	700	+ 43
現金及び預金	95	125	+ 30
短期借入金	65	92	+ 27
長期借入金	222	209	△ 13
社債	70	70	+ 0
有利子負債	357	371	+ 14
D/Eレシオ (倍)	0.54	0.53	△ 0.01

※注

※注) 上記の有利子負債は、借入金と社債の合算値です。

2022年3月期 経営計画（定量目標）

(単位：億円)	2020年度			2021年度			前年対比	
	上期 (実績)	下期 (実績)	通期 (実績)	上期 (計画)	下期 (計画)	通期 (計画)	通期 増減額	通期 増減率
売上高	551.2	637.4	1,188.5	570.0	610.0	1,180.0	△ 8.5	99% (※)
工業分野	279.9	373.9	653.8	352.0	363.0	715.0	61.2	109%
生活分野	271.3	263.4	534.7	218.0	247.0	465.0	△ 69.7	87%
営業利益	3.7	17.2	20.9	10.5	25.5	36.0	15.1	172%
(営業利益率)	0.7%	2.7%	1.8%	1.8%	4.2%	3.1%	-	-
工業分野	△ 11.3	4.4	△ 6.9	0.7	13.3	14.0	20.9	-
生活分野	20.7	17.9	38.6	15.0	17.6	32.6	△ 6.0	84%
経常利益	3.1	16.5	19.6	9.5	22.5	32.0	12.4	164%
(経常利益率)	0.6%	2.6%	1.6%	1.7%	3.7%	2.7%	-	-
工業分野	△ 12.0	2.4	△ 9.6	0.0	10.5	10.5	20.1	-
生活分野	20.1	17.5	37.5	14.6	17.5	32.1	△ 5.4	86%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1.4	9.9	11.3	5.5	12.5	18.0	6.7	160%

(※) 2021年度より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）を適用します。〈参考：旧基準換算売上高1,300億円〉

● **コロナウイルス感染症影響は、その収束時期や収束後の経済活動状況など、広範囲に不透明感が続く**

(工業分野) 全般的にコロナ影響からの回復が進むも、自動車関係では半導体供給リスクなど不透明感が残る
(生活分野) 行楽・観光関連の需要低迷も、スーパーや飲食店のテイクアウト容器需要は継続的に見込まれる

設備投資

(単位：億円)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
	実績	実績	実績	実績	実績	(予定)
設備投資額	58	78	74	53	54	56
減価償却費	36	41	45	61	62	64

● 主な設備投資

2020年度実績

情報システムインフラ整備
 新ポリマー材料研究開発設備
 発泡シート成形設備更新
 耐震補強 など

2021年度 投資予定

情報システムインフラ整備
 合理化・省人化・生産性向上設備
 グローバル拠点能力拡大 など

株主還元

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (予定)	2021年度 (予定)
1株あたり当期純利益(円)	67.34	73.03	75.33	69.09	51.29	24.86	39.88
1株あたり配当(円)	24	24	27	30	30	21	22
配当性向(連結)	36%	33%	36%	43%	59%	85%	55%
自己株式取得(百万円)	—	718.5	621.2	—	—	141.5	
総還元性向(連結)	36%	54%	54%	43%	59%	97%	
ROE	5.4%	5.7%	5.5%	4.8%	3.6%	1.6%	
自己株式消却(万株)	—	100	—	—	—	—	

注) 2016年10月に2株を1株に株式併合、数値は併合後の換算値

● **配当政策** : 連結業績の動向に応じ、かつ配当の安定性と内部留保のバランスを総合的に判断

- ・ 2020年度 : 21円/株 を予定 ※中間配当4円/株 (実施) + 期末配当 (予定) 17円/株
- ・ 2021年度 : 22円/株 を予定

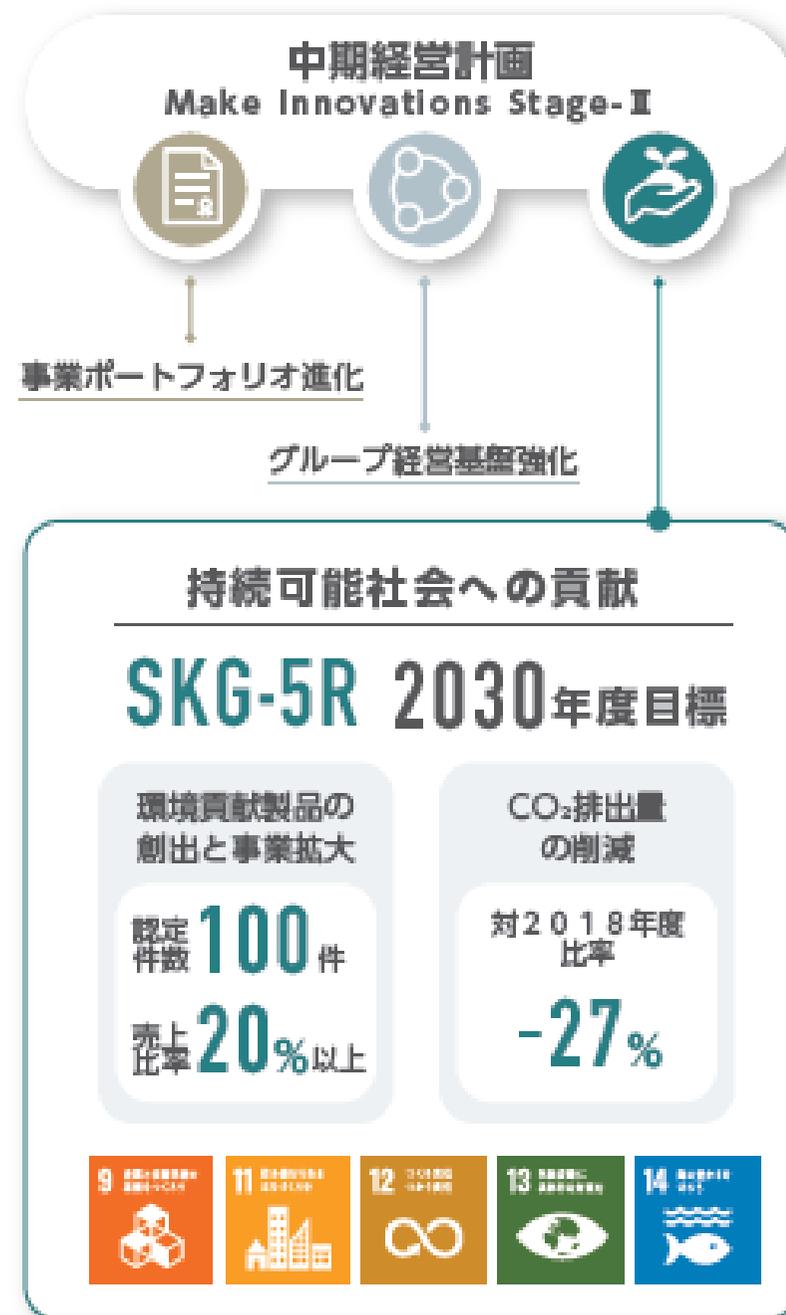
● **自己株式取得** 2021年2月に自己株式の取得を実施

環境リーディングカンパニーへ ～ SDGsの達成に向けた当社取り組み ～

- **持続可能社会への貢献**（中期経営計画の重点施策）
 - ・ SDGsの達成に向けた貢献を「SKG-5R」を軸に展開
- **SKG-5R**
 - ・ 循環型社会の実現に向けた「3R」（Reduce・Reuse・Recycle）
 - ・ 当社独自技術による「2R」（Replace・Re-create）

※SKGは、積水化成品グループの略称です
- **その他のSDGs貢献**
 - ・ 多様で柔軟な働き方、ダイバーシティー推進
 - ・ 労働安全への取り組み
 - ・ 社外パートナーシップ連携
 - ・ 社会貢献活動 など

コーポレートメッセージ「人と地球の、美しい未来へ。」の思いを実現させるため、ステークホルダーのみなさまと連携しながら、地球環境と社会課題の解決に取り組んでまいります



環境リーディングカンパニーへ ～ 環境貢献製品の創出と市場拡大 ～



バイオマス
No.190138

Sustainable
Product STAR



エラストイル BIO



ミッドソールに採用

採用例：ランニングシューズ

■カテゴリーブランド
バイオセラー®
生分解性またはバイオマス由来プラスチックを活用した当社製品群のブランド総称

■プロダクトブランド

エラストイル®	エラストイル BIO
ST-Eleveat®	ST-Eleveat BIO
テクポリマー®	テクポリマー BIO
ライトロン®	ライトロン BIO

● バイオセラー (生分解性またはバイオマス由来のプラスチックを活用した環境貢献製品群の総称)

＜製品名＞	＜材料名＞	＜用途例＞
・ エラストイル BIO	バイオマス由来 エラストマー発泡体	シューズ部材など
・ ST-Eleveat BIO	バイオマス由来 高強度高耐熱発泡体	自動車部材・産業機器部材など
・ テクポリマー BIO	生分解性 有機微粒子ポリマー	化粧品・美容用品など
・ ライトロン BIO	バイオマス由来 無架橋発泡ポリエチレンシート	各種包装緩衝材など

※上記製品は全て、環境貢献製品（サステナブル・スタープロダクト）として社内認定されており、その認定と運用については第三者による妥当性評価を実施しております

環境リーディングカンパニーへ ～ 再生可能エネルギーの開発・普及による貢献 ～



設置事例

- ・ 場所：兵庫県三木市
- ・ 面積：9,500m²

● 「水上ソーラー合同会社」を設立

株式会社環境資源開発コンサルタント様、日鉄物産株式会社様、株式会社スマート・エナジー様と4社合同設立

● システムの特長

- ・ 貯水池などを有効活用する水上太陽光発電システム
- ・ 浮力と剛性に優れたフロートとその係留技術により、暴風雨などに対する安全性を確保
- ・ 省資源化を追求した大型発泡スチロール製ブロックを使用（発泡倍率100倍、つまり体積の99%が空気）

カーボンニュートラルに向けて期待されている再生可能エネルギーの開発と普及を通じ、持続可能な社会づくりに貢献します。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

★内容に関するお問合せは…

コーポレート戦略本部 I R広報部 E-mail : ir_pr@sekisuikasei.com

★当社のホームページもあわせてご覧ください。

アドレスは <http://www.sekisuibasei.com/>

SEKISUIKASEI

Our Planet. Our Tomorrow.